

自己評価報告書(最終報告)

報告者

言語系コース(国語)／小野
由美子

■平成26年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 修士論文、及び学修成果報告書のテーマ・内容について

教員養成大学大学院の修士論文については、理学部や文学部等の専門学部の内容ではなく学校の教育実践に貢献するものが求められている。学校の教育実践(心理教育相談を含む)に貢献する修士論文の指導について、あなたの取り組みや工夫を示してほしい。
教職大学院においては、学修成果報告書を学校教育の実践に具体的にどのように生かしていくか、あなたの指導や一般化への工夫を示してほしい。

1. 目標・計画

- ① これまで同様、授業において自らが受けてきた学校教育を振り返る機会をできるだけ多く設ける。
- ② 学校教育が直面する課題を授業で扱い、関連する論文、研究を紹介する。
- ③ 実践的研究のありかた、すすめ方について、授業で指導する。

2. 点検・評価

- ① 授業オリエンテーション、授業でのディスカッション、授業のリフレクション・メールなどにおいて特に留意して指導し、自らの学校教育経験を反省的に思考させることができた。
- ② 異文化間教育学会紀要所収の研究論文を主たる資料として、外国にルーツを持つ子どもたちが日本の学校教育の中で直面する課題や、教師の課題について議論し思考・認識を深めることができた。
- ③ アクションリサーチや事例研究など教育実践における質的研究の方法について指導しその意義を理解させることができた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①学部・大学院に在籍する日本人学生に対して、さまざまな異文化体験を企画・実施する。
- ②学部・大学院に在籍する日本人学生に対して、多様化する公立学校の学習者に柔軟に対応できるスキル開発を支援する。
- ③院生会、茶道同好会を通して、留学生と日本人学生、外国人研修生と日本人学生との交流を企画・実施する。その際、学生自身が実施プロセスに主体的に関わるように工夫する。

2. 点検・評価

- ① ルワンダで海外研修を企画実施し、本学大学院に在籍する学生を4名を派遣した。研修場所、研修内容について相談にのり、現地では院生主体で研修を行った。日本に在住するルワンダ人が支援する学校の視察、Tumba College of Technology (TCT)での「日本文化週間」、近隣の子どもを集めての野外活動、理科実験教室、現地人教師による理科授業参観と授業検討会での指導助言など、多岐にわたる活動を行った。その成果は研修報告書としてまとめ印刷、配布した。また帰国報告会を実施し、異文化への関心を促すよう啓発活動を行った。② ラベルワーク、リライト教材開発の専門家を招き、多様化する学習者への支援に活用できるよう実習を行った。
- ③ 本学が受託するJICA研修員に対して、茶道クラブ「一期一会」による茶道体験を実施した。また、担当する授業の受講生を中心にボランティアを募り、受託研修員にたいして日本語レッスンを実施した。これらの企画は学生主導で行うことを重視し、機会の提供と側面支援を心がけた。

II-2. 研究

1. 目標・計画

- ①途上国における「授業研究」に関して、これまでに蓄積したデータを分析して、論文としてまとめる。
- ②科研(基盤B、挑戦的萌芽研究)の研究成果を学会で発表し、論文として投稿する。

2. 点検・評価

- ① Southern African Journal of Mathematics, Science and Technology Education に論文を投稿し査読中である。
- ② 異文化間教育学会、比較教育学会、アメリカ比較国際教育学会(CIES)、日米教員養成協議会(JUSTEC)、日本教師教育学会、Southern African Association of Mathematics, Science and Technology Education (SAARMSTE)において、科研の成果を発表した。本学紀要「国際教育協力」研究」に投稿した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- ①国際交流委員として、本学の国際化に貢献する。
- ②留学生コーディネーターとして、留学生の教育・学生生活の改善に貢献する。

2. 点検・評価

- ① 国際交流委員として、プレトリア大学との交流の充実・発展の橋渡しをした。またグローバルなマインドをもった学生の育成を目的としたコンケン大学での海外研修、実習を実現させるため、現地担当者と交渉した。
- ② 留学生オリエンテーション、日本語補講、課外体験他、留学生の教育、学生生活に関係する事項について助言した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

- ①International Council on Education for Teaching (ICET)の2015年大会を鳴門教育大学で実施するために、準備委員長として多方面と協力して準備にあたる。
- ②アフガニスタン識字教育強化プロジェクトに専門家として参画し、第3国研修において現地人材の能力強化を行う。
- ③ルワンダでのJICAプロジェクトに短期専門家として参加する。

2. 点検・評価

- ① ICET2015年大会(於:鳴門教育大学)の準備委員長として学内に準備委員会を設け準備委員会委員とともに多方面の協力を得ながら準備を進めることができた。
- ② アフガニスタン識字教育強化プロジェクトに専門家として参画し、所期の成果を得ることができた。
- ③ ルワンダでのJICAプロジェクトに短期専門家として参画し所期の成果を得ることができた。
- ④ ミャンマーでのJICAプロジェクトに短期専門家として参画し、同国の今後の初等教育教員養成について貴重な貢献を行うことができた。
- ⑤ 「わくわくなるっ子」で大洋州の受託研修員と地域の小中学生の交流を企画実施した。実施に当たっては本学院生を主体としたことから、院生にとっても異文化理解だけでなく、イベントの企画実施、評価の良い経験となった。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

本学の国際交流において、ルワンダ、ミャンマー、アフガニスタンを中心に活動し、その活動・研究成果を学内だけではなく広く内外の関係学会にも還元している。また、学生・院生を機会あるごとに海外でのフィールド活動に参加させ、その活動・研究の視野を広げ、その成果を学内はもとより国内外での学会において発表させることに努めている。これまでのこうした国際交流活動を基礎として、本学におけるICET開催(2015年6月)に向けての取り組みは、本学・教員のこれまでの国際交流の深化・拡充に対して大いなる貢献を創出している。

(注)本欄は、目標の設定時には記述を要しない。評価する際に記述すること。